



更生 刻々



法務省東京矯正管区更生支援企画課

☎048-600-1560

✉ kouseishien-tokyo@cccs.moj.go.jp

ホームページ

http://www.moj.go.jp/kyousei1/
kyousei08_00101.html



第5号
令和3年2月18日発行

1月23日（土）再犯防止シンポジウムが開催！

YouTubeライブで 再犯防止を考えた

再犯防止シンポジウムと呼ばれるイベントをご存じでしょうか？

2015年から、法務省が犯罪をした者等の再犯の防止等についての関心と理解を深めるために毎年実施しているイベントです。その第6回目となる今回は、YouTubeライブによる初のオンライン開催となりました。

「国と地方が連携した再犯防止・更生支援の取組」をテーマに、奈良県、愛知県、宮城県の各県で行われている再犯防止の取組をVTRで紹介しながら、フリーアナウンサーの山本舞衣子さんの司会進行のもと、モデルやタレントとして活躍されているトラウデン直美さん、三重県伊勢市長の鈴木健一さん、協力雇用主の野口義弘さんによるクロストークが行われ、地域における立ち直り支援が今、どのように行われているのか、一般の方にも

わかりやすく紹介されました。

本イベントの様子などは、YouTube法務省チャンネル（以下のQRコードからアクセスできます）で配信しますので、当日見逃された方も是非御覧ください。



配信後の様子@法務省



↑ YouTube
法務省チャンネル
はコチラ

1月27日（水）都道府県再犯防止等推進会議も開催！

オンラインで 再犯防止の最新知見が見えた

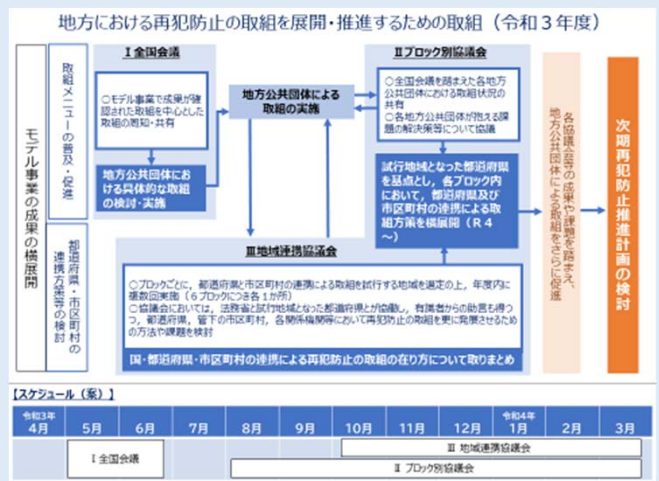
去る1月27日、法務省で都道府県再犯防止等推進会議が開催されました。第3回目となる今回は、緊急事態宣言下ということもあり、初のオンライン開催となりましたが、大きなトラブルもなく、多数の地方公共団体の皆様にご参加をいただきました。

法務省、厚生労働省、そして内閣府からの行政説明が中心となりましたが、厚生労働省からは、地域生活定着支援センターにおける事業の現状と、来年度から刑事司法手続きの入口段階にある被疑者・被告等に対する支援、いわゆる入口支援が開始されることの説明があり、内閣府からは成果連動型民間委託契約方式（PFS）の説明がありました。

そして法務省からは、地方公共団体の皆様に実施いただいた、地域再犯防止推進モデル事業の成果を踏まえ、令和3年度以降、地方において再犯防止の取組を展開・推進するためにどのような取組を実施していくのか、その概要が説明されました（右図）。

具体的には、モデル事業の成果を横展開するための全国会議の実施（令和3年5月～6月）と、それを踏まえたブロック別協議会の実施（令和3年8月～）、さらに

は、ブロックごとに、都道府県と市区町村の連携による取組を試行する地域を選定し、法務省と試行地域との協働により、再犯防止の取組を更に発展させるための方法や課題を協議するための地域連携協議会を実施（令和3年10月～）するという3段階のモデルが示されました。本取組については、今後法務省から改めて地方公共団体の皆様にご案内等がなされるものと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



コレワーク関東 就労支援スタッフ 中谷さん

「大丈夫、ここからが始まりなんだから」

更生支援
を語る



どうして矯正施設の就労支援スタッフになったのですか？

巡り合わせですね。長年勤務した銀行を辞めて、フリーのキャリアコンサルタントとして活動していた時、偶然刑務官の方とお会いしたんです。当時は刑務所で就労支援がスタートしたばかりの黎明期で、三重刑務所でもキャリアコンサルタントを探していました。最初は単発の講話というお話だったのですが、定期的に受刑者に対してキャリアコンサルタントを実施することになったんです。

受刑者と面接することは怖くないですか？

怖くないです。その人の背景に何があるんだろう、どんな人生を送ってきたか、どこにいるんだろう、という人に対する興味みたいなものが上回っちゃうんですね。

それに、受刑者と言っても同じ人間ですし、面接の時は彼らも紳士的なんです。刑務所ではゆっくり誰かに話を聞いてもらう時間は貴重ですから、熱心な話してくれそうですしね。

受刑者の就労支援にやりがいがありましたか？

ありました。彼らと継続的に面接をしていると、最初は「自

地方銀行で29年間勤務した後、一念発起してキャリアコンサルタントの道へ。平成18年、三重刑務所にて就労支援スタッフとして勤務を開始。平成31年からはコレワークで事業主のサポートに当たる。



コレワークで事業主の相談に乗る中谷さん

コレワークに支援の場を移され、どうですか？

コレワークでは、主に事業主の方々への支援を実施しています。が、事業主の方々も彼らの雇用者に色んな思いをお持ちです。そういう思いを矯正施設に届けることで、施設のために、ひいては彼らのためになればいいな、と思っています。

地域の皆様×矯正施設の取組をパンフレットでご紹介

矯正施設が地域の皆様と一緒に取り組んでいることを紹介するパンフレットができました！それも2冊！

1冊は少年院を中心に紹介する内容で、関係者の中で静かな話題となっている「泉南学寮グリーンサポーター」の取組を始め、全国の少年院で行われている社会貢献の取組が写真たっぷりで紹介されています。

もう1冊は矯正施設と地方自治体の皆様との連携を中心に紹介しています。

「矯正施設ってこんなこともやってるんだ」と、これまでのイメージを覆す内容が盛りだくさんです。



法務省ホームページからご覧いただけますので、ぜひご一読ください！アドレスはこちら↓
http://www.moj.go.jp/hisho/kouhou/hisho06_00036.html

更生小考

④仕事

俵万智さんに我が子命名の短歌がある。「とりかえしのつかないことの第一歩 名付ければその名になるおまえ」。下句にあるように、名前のもとに日々の生活が幾層にも積み、名前はその人となる。名前と同じように、自分史を形づくり、社会での立ち位置を語るのが仕事である。仕事には経済性、社会性、個性の側面があり「職業の三要素」と呼ばれる。三要素の基盤は自己であり、「職業は自己を成す」。

矯正施設出所者の求職の壁は厚い。職が見つからない。投げやりになる。犯罪に向かってしまう。この連鎖を断つ取組が平成18年度から始まった。法務省と厚労省の連携を軸とした出所者の就労を確保する「刑務所出所者等総合的就労支援対策」である。平成26年には「受刑者等専用求人」が始まった。雇用主が雇用したい施設を指定した上で、ハローワークに求人票を出せるようになった。さらに平成28年にコレワークができ、受刑者らの情報をデータベース上で集約し、求人情報に合う者がいる施設名を提供できるようになった。

芥川龍之介の「羅生門」は、暇を出されて無職になり、途方に暮れている下人から始まる。高校の国語では、人間観を深めるために扱われる。羅生門にいた老婆を触媒に、下人は悪を肯定する心を湧き立たせる。老婆の衣類を剥ぎ取り、急ぎ去る。生活に窮して倫理感がゆがみ、犯罪に走ったと読むのがオーソドックスなところ。ある高校での授業後、生徒の一人が別の読み方を教師に提起したという話がある。

「下人を追い詰めたのは飢えではなく、孤独だったのではないか」と。物語は、「下人の行方は、誰も知らない」という余韻を与える一文で終わる。これに倣えば、「下人の心の行方は、誰もが行き当たる」と言えるだろうか。名前による自己の顕現と名前のないままの孤独な隠伏。短い表現に託された意味は深い。